

令和8年度第1回飯豊町総合教育会議
会議録要旨

1. 開催日時：令和8年5月22日（金）午後4時00分～午後5時00分

2. 会場：東部地区まちづくりセンター 研修室

3. 出席者

飯豊町長 嵐正人

飯豊町教育委員会

教育長 菅原透、教育長職務代理者 井上俊幸、教育委員 田林義則、

教育委員 堀江優子

〈事務局職員〉

教育総務課

課長 横山昌則、教育振興室長 渡部真知子、教育振興室主査 本間和宏

社会教育課

課長 竹田辰秀、生涯学習振興室長 木村忍

総務課

課長 鈴木祐司

4. 会議の内容

開会：横山課長

町長挨拶：嵐町長

教育委員の皆様には、日頃から町の教育行政の発展と子どもの健全育成のため真摯に向き合っていただき、ご指導とお力添えをいただいておりますことに感謝申し上げます。今年4月、極小規模学校・複式学級の解消を図るため、第二小学校と手ノ子小と添川小を統合してから、1か月余りが経過しました。子どもたちは元気で学校生活を過ごしており、話を聞くとところによりますと、「人数が多い中で勉強できて楽しい」「いろんな遊びができる」といった声があり、統合のメリットを子どもたちも感じているようです。大きな事故もなく、良いスタートを切れたと思っています。これからも子どもたちに寄り添いながら、不足している部分があれば、町として支援してまいります。本日の協議は、義務教育学校の校名のことです。町民の関心が高く、学校の名前は地元の誇りとなり親しまれる名称であることから最も重要視されます。町内で意見の対立が生じることは好ましくなく、みんなに愛される名前にしていく必要があると思っています。50年、100年と残る名前になりますので、教育委員会においてもこれまで協議を重ねてきたと伺っておりますので、お考えの募集の結果も踏まえながら、様々なご意見をいただき、より良い方向に進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

協議（座長：嵐町長）

（１）義務教育学校の校名について

（嵐町長）

「（１）義務教育学校の校名について」の協議に入ります。校名に関するお考えの募集の結果を踏まえて、委員の皆様から意見をいただきたいと思います。

（井上教育長職務代理者）

総合教育会議は、首長が教育行政により一層責任を持ち、民意を反映するとともに、教育委員と意思疎通を図り、教育の課題や目指す姿を共有する場です。前町長の時から協議が始まり、計画が二転三転してしまいました。地域の理解が必要ですし、予算がなくて何もできないことは、仕方ないものだと思っています。校名の課題も今日まで続いています。開校年度が決まりましたが、生徒や保護者も入れ替わるくらい先のこととなりました。時間がかかりすぎたことに委員として反省しなければならないと思っています。校名の署名活動は、嵐町長に多くの若い世代が期待している事実のように思えます。いろんな考えはあると思いますが、校名決定の進め方に間違いがあったわけではないとも思っています。しかし、大事だったのは、生徒や保護者の民意をもっと反映しなければならなかったことではないのかなと、私自身思っています。校名に関する考えも募集し、手順を踏んできましたが、教育委員会の総意と総合教育会議の整合性を取るならば、前町長の時と同じように、今の町長に最終的な判断をいただくのが筋ではないかと思っています。同じことを繰り返す懸念はありますが、町長の考えを反映することも大事だと考えています。町長としてリーダーシップを発揮され、適切な対応をお願いするものです。

（田林委員）

広く公表して校名の決定の過程や思いを知ってもらう努力が、教育委員会も事務局も足りなかったと感じています。義務教育学校の計画が二転三転し、携わってきた委員の一人としても申し訳なく思っています。計画が施設分離型から施設一体型になり、そこに町長選挙があり、義務教育学校の話が出て、校名についても話題となっていきました。私の考えは、名前というのは、十人十色でいろんな考えがあり、好き嫌いも当然あるものだと思います。教育委員会としては慎重審議をして決めたと思っています。1, 505人の署名は飯豊町の人口約6, 000人からすると大きな数だと思いますが、一方、校名に関する考えの募集では、署名数と比較すると37人というのは少ない感じがして、もっと意見があってもよかったかなと感じます。そういった意味でも、教育委員会としては、現行の校名のままでいくべきだと思っています。

（堀江委員）

個人的に署名活動の声はかかりませんでしたので、全く分かりませんでした。校名の再検討を思っている方がこんなにいることを初めて気づきまし

た。校名の応募の多くが子どもたちからのもので、意見も反映されながら決めたことでありますが、再検討を要望されている方の大半は大人であるように思えます。校名を決めるときに町民から意見をいただく機会があればよかったのかなと思うところがありますが、田林委員がおっしゃったように、校名に関するお考えを見ますと、人それぞれにいろんなご意見はありますが、個人的には現行のままでいいのではないかと思います。なぜなら、校名を募集する際にどんな方法で決めるかのルールの記載があり、誰がどのように決定していくかもきちんと書かれてあったからです。

(菅原教育長)

1, 505人の署名を受け、再検討することになったわけですが、私は町長が町民の考えを大事にする方向性の中で動いてくださったことに大きな価値があったと思っています。議会の議決事項ですが、再検討にあたってのお考えの募集を行ったわけで、1, 505人の署名に対して、それがどうだったかを量と質で考えなければならぬと思いました。量を考えた時には、37人の反響で、町民の意識や関心を考えたとき、1, 505人から、なぜこれだけの数しか集まらなかったのか、残念でした。なぜ再検討が必要なのか、多くのお考えをいただきましたきっかけですが、一方、質を考えた時、その理由を見ると、イメージや好き嫌いといったところが一番大きく、多様性の包摂を求められている中でふさわしくない残念な理由も見受けられました。37件のお考えの量と質の説得力が、議会で議決されたことを覆す根拠や私たちの心を動かす、納得させるものとしては、薄かったというのが正直なところです。校名決定に民意が反映されたのか、という指摘もありましたが、開校準備委員会で校名の募集と選定を行い、教育委員会、総合教育会議を経て一つに絞り込み、議会で審議いただいた経過がありました。民意という言葉が出ているわけですが、町民の代表である議員の皆様からの賛成を得ての校名決定だったことを考えれば、決してその手順に手落ちはなかったと思います。今回の総合教育会議で方向性を決定するとするならば、現行通り、いいでの森学園が最も説得力が強いのではないかと思います。

(嵐町長)

真剣に考えていただき、非常に悩ませてしまい申し訳ないと思っています。委員の皆さんの総意としては、いいでの森学園を校名としていくべきという考えだったと思います。私は、令和14年度の開校を決定しました。校名が決まった令和5年度から逆算すれば8年間も期間があり、タイムラグが大きいと思ったところです。他市町村の統合校の校名は、スケジュール的には、開校の2、3年前ぐらいが標準的だと見受けられ、社会的な影響や現役の児童・生徒・保護者の入れ替わりなどを考えると校名の再検討を決めるにはまだ時期が早いのではないかと思います。人口減少が進む中で、どれくらいの規模の学校が必要か、どんな学校にしていくか、そのようなコンセプトと一緒に校名の再検討も

考えていきたいと思っています。例えば令和11年度または12年度の開校前の機運が高まっている時に、もう一度校名について考えてさせていただきたいと思います。開校時期に合わせて再検討の期間を伸ばす方向で、議会や町民の皆様へ報告をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(井上教育長職務代理者)

町長が言われたことの内容は間違っていないと思います。開校時期が延びた分、いろいろ変わってくることもあると思いますので、それに合わせて一体的に考えることはあるかと思います。しっかり説明されれば、理解いただけるものと思います。

(田林委員)

開校の延期に合わせて、校名の再検討も延ばしたいという考えであれば、理解できると思います。

(堀江委員)

田林委員と同じ意見です。

(菅原教育長)

町長がおっしゃったことについては、多くの方が納得できると思います。再検討にあたって現段階での判断をそのように確認しつつ、令和14年度の開校に向けては、しかるべき時期に校名の再検討の結果を出すということでよいと思います。

(嵐町長)

では、本日の協議の内容と結果は、町ホームページ上で公表し、周知するものとしします。

(2) その他 なし

閉会：横山課長